

カンボク

Viburnum opulus

スイカズラ科



カンボク

名前の由来

漢字名の「肝木」の由来は不明だが、木に肝への効能があるためという説がある。漢字名：肝木

形態的特徴

平地～山地に生える落葉樹、樹高3～5m。葉は長さ5～11cmの倒卵円形で3中裂し、ふぞろいな鋸歯あり、裂片の先はとがる、対生。花は散形花序に、径4mmの白い両生花と径2cm、5弁の装飾花をつける、6月開花。果実は球形で径7～9mm、9月に赤く熟す。

類似種との見分け方：ミヤマガズミの葉はカンボクのように3裂しない。またミヤマガズミには装飾花がない。ノリウツギの葉は卵型なのに対し、カンボクの葉は3裂する。

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(葦原・樹林) 鳥類
ワシ・タカ



カンボクの花。右の小さな(2mm)ものが花で、大きなものは装飾花



カンボクの実。7～9mm。食べられないが薬用になる



カンボクの葉。特徴的な形。ふぞろいなギザギザ(鋸歯)がある



カンボクの樹形。低木



カンボクの樹皮。



カンボクの冬芽。5～8mm。2つ向かい合う



カンボクの枝先の葉。枝に2つずつ向かい合ってつく(対生)

生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期												
結実期												

生育環境・分布

山地の湿り気のあるところ。

分布：国外分布は、千島、樺太、朝鮮、中国、アムール、ウスリー。国内分布は、北海道、本州中部以北。北海道内分布は、全域。

十勝地方生育状況は、全域。

繁殖生態・寿命

6月に開花し、果実は9月に赤く成熟する。種子はきわめて小さく軽い。風によって種子分散する。寿命は不明。

他生物との関わり

花には、ハチ、チョウ、ハエ、アブ、カミキリ等様々な昆虫が訪れる。

植栽関係

挿し木、取り木、株分けによる。



カンボクは林内では低木層を形成する

興味深い話

■庭園・公園樹や器具材に、果実を薬用（胃薬などか）に用いる。また、花を発汗剤、茎葉を切り傷や腫れ物の薬とする。

■果実は食べられないという。

■材は白く芳香があり、江戸時代には総楊枝（端をうち砕いて総のようにした楊枝）をつくるのに使われた。普通の

楊枝材にも使われるという。

■十勝地方のアイヌ語名は不明。幌別では「パシクレプ」、幌別・長万部などでは「ヤルペニ」などという。

■アイヌの人々は果実の絞り汁を目薬や胃薬に用いたという。

■花言葉＝「年老いた」。



カンボクの実



冬枯れの枝に残るカンボクの実

配慮事項

挿し木の活着率は50%程度。株分けもできるので、切り株を移植することで、保全もできる。

参考文献

「図説花と樹の大事典」木村陽二郎 監修 植物文化研究会・雅麗 編集 柏書房 1996

「北海道樹木図鑑」佐藤孝夫 亜璃西社 1990

「北海道 庭と庭木のすべて」原秀雄・須田輝 北海道新聞社 1978

「新版 北海道の樹」辻井達一・梅沢俊・佐藤孝夫 北海道大学図書刊行会 1992

「森林で遊ぼうシリーズ1 おもしろい木の話」北海道立林業試験場 監修 北海道林業普及協会 1996

「知里真志保著作集 別巻I 植物編・動物編」知里真志保、平凡社、1976

緑化樹の用土別によるさし木発根成績 吉川栄二 光珠内季報23号 p:11~p:13 1975

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(鳥辺) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類
ワシ・タカ